

PORT LETTER

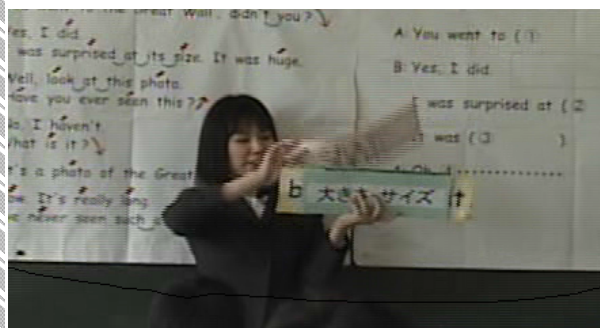
第2号

2006.8.22..

発行者：横浜市立中学校教育研究会英語科部会 調査広報部

平成18年度 第1回英語科授業研修会 報告

7月6日(木) 横浜市港南区の野庭中学校にて、第1回英語科授業研修会が行われました。当日は、教員として4年目の小坂真紀先生を授業者として、「4技能の有機的な連携を図るための授業の工夫」～様々なreadingの活動を生かして、自己表現(writing)につなげるために～ というテーマで授業は展開されました。



授業は、3年生32名のクラスで行われ、教科書のリーディングに主眼を置き、それを発展させて自己表現につなげるものでした。

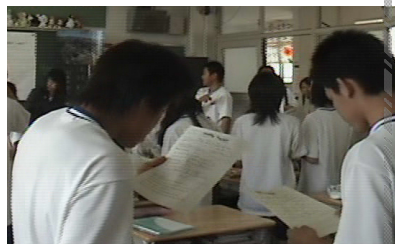
夏の日の午後の授業でしたが、生徒はいきいきと活動し、大きな声で話し、読み、安心して活動していました。

小坂先生の授業でユニークなのは最初のウォームアップの活動で、生徒が司会をして Q&A を行うものと、ペアワークで Question Race といって、20の質問を決められた時間の中でどれだけたくさんできるかという活動でした。教科書の読みでは、Frog reading, Takenoko reading など様々なやり方でくりかえし音読させ、ほとんどの生徒が目標を達成できるものとなりました。その後、教科書の文を用いて、ペアワークで自己表現活動を行い、全員が積極的に活動に取り組み、自然な感じで会話を楽しんでいました。

普段の活動の成果があつてのことと思いますが、生徒が意欲的に学習に取り組むように指導されてきた先生と生徒の関係のよさを感じました。

その後の研究討議では、研修部の工夫により、グループ討議による全員参加の研修会が行われ、「授業で活かしたいこと」「工夫した方がよいと思われたこと」「質問」の3つの内容で授業を見ての感想等を書き、それを見ながら、話し合いを行いました。細かくステップを踏むことで全員がしっかり読めるようになる、普段の積み重ねで、生徒が安心して表現できる環境を作っていることが素晴らしいなどの意見が出されました。

磯部指導主事からは、音読の意味、効用、ゴールの設定などのお話があり、音読の可能性を考えさせられました。明日からそれぞれの学校に帰って使えるアイデアと、自分の授業の改善に取り組める方法を知る良い機会になりました。



(担当：南中学校 山口順子)

初任者の声 VOL. 2

今年度も、各校で奮闘中の初任の先生方からメッセージをいただいています。紙面の都合上、数名ずつですが、随時ご紹介していきます。今回は第2回目です。

原稿をいただいているのが、6月のため、話題が少し古くなりますがご了承下さい。

南中学校 樋口真理子先生

横浜での新生活、初めての一人暮らし、初めての担任。臨任経験はあるものの、始めてだらけの教員生活のスタートです。まず、学校のシステムに慣れるのが大変で、まさに怒濤の一ヶ月といった感じでした。1年生の担任であるため、子どもたちにはあらゆることを一から教えなければならず、同じ1年生である私にとって、それが最も大変な仕事でした。それでも、周りの先生方に支えられ、自分自身少しずつ成長していている気がします。長年の夢を叶えることができた今、キラキラと輝く子どもたちの笑顔をエネルギーにして、これからも精一杯頑張っていきます。

南戸塚中学校 森山裕子先生

四国から横浜に来て、早2ヶ月が経ちました。やっと環境に慣れてきましたが、初めは私の地元の学校環境とのギャップの差に、驚きと戸惑いを感じる日々でした。「右も左もわからない状態」であることが何より一番の苦勞でした。

しかし、職場では、先生方が公私にわたり、親切にいろいろなことを教えてくださいます。また、生徒たちが元気に声をかけてくれます。

私が元気に仕事ができるのは、周囲の人たちのお陰だと、日々感謝しています。教員になるという長年の夢が実現した今年は、私にとって最高の年！微力ですが、私も生徒や先生方のお役に立てるよう、笑顔をモットーに努力をしていきたいと思いをします。



募ヶ崎中学校 古川厚子先生

勤務して早くも三ヶ月が過ぎ去ろうとしています。毎日が緊張と発見の連続でしたが、周りの先生方に愛情あるサポートを沢山いただき、ようやく学校生活にも慣れることから始まり、言葉遣いの違いに大変苦勞しました。また、授業では「わかる授業展開」の難しさに煩悶する日々を送っております。しかし、次第に子どもたちのかわいいところも見えてきて、これからもっともっと子どもたちの良さを伸ばせるよう、私も陰の力となればよいなと思っております。

